

有機農業推進 2町協力

高鍋町と木城町がオーガニックビレッジ宣言

高鍋町と木城町が令和5年6月25日に、「オーガニックビレッジ宣言」を行った。両町は2018年に「高鍋・木城有機農業推進協議会」を設立するなど、有機農業を核とした持続可能な町づくりを目指しており、この宣言は、化学農薬などを使わない有機農業により農業生産に伴う環境負荷の低減を図るため、有機農業の割合を増やすことなどが掲げられ、生産から消費まで地域ぐるみで有機農業を進める新規就農者のサポートや販路拡大などの実現に向けた取り組みをさらに進める。

オーガニックビレッジ宣言は農林水産省が2021年に策定した「みどりの食料システム戦略」に基づく取り組みで、現在両町を含め全国49市町村がオーガニックビレッジ宣言を行っている。



宮崎県内での宣言は綾町に次いで2例目となる。

両町では高鍋・木城有機農業推進協議会を18年に発足させて取り組みを進め、更なる有機農業の拡大を目指し、2022年には、同協議会の支援により、NPO法人みやざき有機農業協会(木城町、阿久根治喜理事長)が設立され、有機JASの登録認証機関として承認を受けた。さらに23年3月、宣言を行うために必要な有機農業実施計画も策定。

25日は高鍋町美術館で宣言の式典があり、黒木敏之・高鍋町長は「高鍋町・木城町のように複数の自治体が連携して有機農業を推進する取り組みは全国的にも注目を集めている」半渡英俊・木城町長は「小丸川流域の両町でタッグを組んで、オーガニックな町づくりをしていきたい」と力強いあいさつを行った。

このあと、パネルディスカッションも行われ、生産者からは、都市部から遠い宮崎の物流の問題として、物流業の担い手不足などで都市部への輸送が困難になっている等の課題を指摘する意見も出された。